

2024年度秋ヨーロッパ剣道交流の旅

IGKC 東海地区クラブ 酒井武信

日程 2024年10月3日発、15日帰国
訪問先 オーストリア（フルステンフェルト・ウィーン）、ギリシャ（アテネ）
参加者 団長：野口慎一郎範士（九州）、曾根孝悦理事長（東北）、古庄勤也（九州）
前野頼彦、菊地原緑、岩城昌志、桜庭阿恵（以上関東）、久保達也（近畿）、酒井武信（東海）
以上9名に加えて、奥様同伴の先生もおられて総勢13人

新型コロナウイルス感染症以降昨年度再開され、私は昨年に続き2回目の参加になりました。参加者の方々は、3日の夕刻に成田・関空・福岡からそれぞれ出発し台北からは同一便にて14時間後の3日早朝にウィーン空港到着、バスで合宿地であるフルステンフェルトへ向かいました。

○合宿地：フルステンフェルトはウィーンの南約180kmにある小さな町であり、体育館・グラウンド・ボルダリング・ボーリング施設を備えた宿泊施設です。

グラーツの村上晋亮先生が御世話役を務める「無門館」が約4割の人数を集め、その他ウィーン・チロル・クロアチア・イタリア等からも総勢45人が集結していました。昨年の参加者も多く、剣道が続けていてくれることにうれしく思いました。在オーストリア日本国大使館の船引啓先生にも参加いただきました。合宿地での稽古回数は10月4日金曜日の夕刻（1.5h）、土曜日の早朝（1h）・午前（1.5h）・午後（2h）、日曜日の早朝・午前・午後と7回設定されており、参加者の熱意に圧倒されます。オーストリア剣道連盟会長で「無門館」のクラウス先生より挨拶があり、それに答える形で団長の野口範士が挨拶を行ないました。

村上先生の長女でこの10月から大学生になったミアさんの号令で準備運動が行われ、いよいよ合宿が始まりました。午前と午後の前半は、参加者の段位・年齢を考慮した約10人ずつの4つのグループに分け、子供クラスは前野先生・菊地原先生・桜庭先生が担当して、基本を中心とした指導が行われました。初心者クラスは、久保先生・岩城先生により基本打突・切り返し・仕掛け技を中心に指導しました。1級から3段の若手クラスは、「稽古法や技」を指導してほしいとの要望がありましたので、曾根先生・酒井より基本打突に加えて、払い面・打ち落とし面・巻いて面等の攻め方を指導し、打ち込み稽古・掛稽古等ハードな稽古内容でした。しかし疲れを見せない体力のある剣士たちでした。有段者クラスは、参加者側から「打突の機会」についての指導の希望がありましたので、野口範士・古庄先生より、基本打突・応用技・打突の機会の実践的指導・掛稽古・相互の地稽古が行なわれました。

早朝と夕刻後半1時間は、日本人指導者がもとに立ち指導稽古を行いました。参加者の真剣な立ち合いに対して手が抜けない稽古でした。また、3日間の合宿の夕刻の3回の稽古の最後の10分間は日本人参加者が3人の8段の先生からの指導（3分×3人）をいただき、現地参加者は見取り稽古を実施してみました。日本人参加者にとって大変良い機会となりました。

日曜日の午後稽古の前半1時間はグループに分けて、初級には木刀による基本法、若手には日本剣道形（1～4本目）、有段者には小太刀3本目までの細部にわたる丁寧な説明を行いました。最後にグループ別に演武を行い緊張感の中で見事に実施していただきました。

この合宿を通して、稽古・日本剣道形ともに昨年からのレベルアップが見られましたので、皆さんが稽古を続けていることにうれしく思いました。

○合宿終了翌日の7日は、オーストリア第二の都市で世界遺産の古い町並みがあるグラーツへ立ち寄りました。ここでは村上先生の奥様の案内のもと時計塔・州庁舎・二重螺旋階段等ハイライトツアーができました。私の昨年来の希望をかなえていただき大変感謝しています。ウィーン到着後、20～21時にウィーン剣道連盟の約20名の皆さんとの交流稽古を行ないました。ロト会長の長女でこの10月から大学生になったカトリーヌさんの号令の下に準備運動を行った後に指導稽古を実施しました。防具未着用の大人の3名の方の面打ちを受けましたが、大きく振りかぶり一拍子で打っていましたので、基本の指導が着実に行われていると感じられました。特別ゲストとしてヨーロッパ剣道連盟会長のホーク先生が来られて日本人と同じく元に立って稽古して頂きました。その夜は、ロト会長・ホーク会長を交えて懇親会を催しました。

○8日はウィーン観光のために、小宮あかりさんが周遊バスを予約してくれました。複数路線が自由に乗り降りできるもので、イエローラインによりオペラ座バス停から乗車しシェーブルン宮殿（観光馬車に乗車）・ベルベデーレ宮殿（クリムト画）を見学後、中心部のステファン寺院で自由行動となりました。

○10月9日にはアテネへ移動し、空港のお出迎えから観光・稽古会までのアレンジは、野口先生の後輩でアテネの観光会社勤務の新井良さんと奥様で公認日本語ガイドのナターシャさんに大変お世話になりました。10日はアテネ沖の3島クルーズ。11日はオリンポスの丘に登りパルテノン神殿見学、その後国立考古学博物館を案内いただき、歴史的な文明・遺産に触れられて感激しました。11日は同時期に開催された書道家竹前先生の書道展を見学させていただき、インスピレーションをもとにした力強い筆遣いには、対人競技である剣道に通じるものを感じました。

○10月12、13日はアテネの4団体の剣道家の24名の方々との稽古会でした。今回は希望者が多かったものの、道場が狭いために半数の方に遠慮いただいたとのことでした。

稽古は、野口範士の指揮の下、竹刀を持たずに行なう基本打込み稽古・防具を着けての基本打突・応用技打突、その後指導稽古等を実施しました。参加された方は、真剣そのもので鋭い眼つき・大きな発声・機敏な動作をされており、それに答えられる様に私どもも真剣に稽古しました。また稽古後に、「三所防ぎの反則」「攻め方」等の質問があり、剣道研究への意欲が旺盛であり、次の機会に訪問した時のレベルアップの姿が予想できました。

○今回のフルステンフェルトとアテネでの稽古に際して、基本的な重要ポイントを紙面にしてお渡ししてきました。構え・有効打突・切り返し・残心・攻め・面技数種・応じ技等について重要な点を2ページにまとめたものです。今回の指導の中で各先生からのべられた内容を、改めて文章で読んでいただき、今後1年間の研鑽に励んでいただければ幸いです。

最後になりますが、大変お忙しい中旅程調整・航空券手配・現地との連絡・交渉にご苦労いただきました近畿地区クラブ幹事長の久保先生に感謝申し上げます。また道中の気候の変化のためか風邪気味の方が数名いらっしゃり、奥様方には薬・食事・休養等のアドバイスをいただきました。おかげさまで、稽古に支障もなく、全員無事に帰国することができましたことを感謝申し上げます。

最後になりましたが、グラーツの村上晋亮先生ご家族、ウィーン剣道連盟ロト会長ご家族、小宮あかりさん、アテネの新井亮先生ご家族にこの場を借りて感謝申し上げます。



日本人剣士の先生方々 @フュルステンフェルト合宿所 10/3



日本剣道形の指導

日本剣道方の演武風景



合宿参加者 @フュルステンフェルト合宿所 10/5



グラーツ旧市街 10/7



ウィーンでの稽古後の集合写真 10/7



イドラ島 @ギリシャ 10/10



竹前先生の書道展鑑賞 10/11



パルテノン神殿見学 10/11



アテネでの稽古風景 10/12



アテネ集合写真 10/13